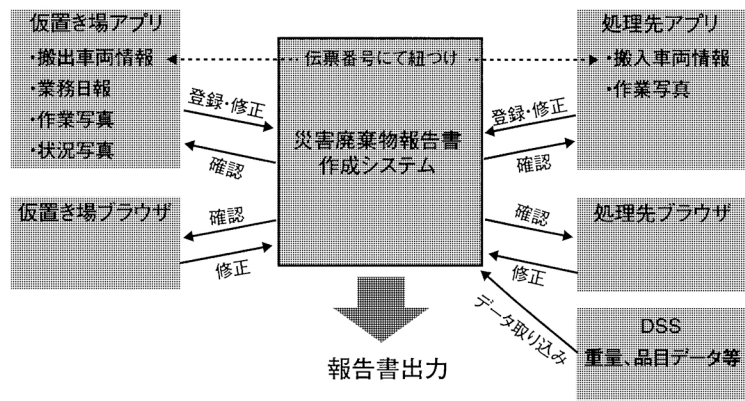




「災害廃棄物処理情報管理システム」の概要

「災害廃棄物処理情報管理システム」本格稼働開始

大栄環境が人吉市の災廃処理支援で

大栄環境（グループ本部・神戸市）は、有価物回収協業組合石坂グループ（熊本市）と連携した熊本県人吉市での災害廃棄物処理支援活動の開始に伴い、自社開発の「災害廃棄物処理情報管理システム」の稼働を開始した。携帯端末を活用したのが国初の情報システムの活用により、現場での履歴や画像データを把握することで、広域的な災害廃棄物処理の全体プロセスをリアルタイムで管理するとともに、災害復旧を担う被災自治体への迅速で正確な報告が可能になる。大栄環境は近年、大規模災害が頻発するわが国において、被災地復旧に資する広域的な災害廃棄物処理支援活動を行いながら、その信頼性と透明性の向上を図るために、同システムを有効活用していく考えだ。

災害廃棄物は一般廃棄物処理業者等との連携を全国的にも「災害廃棄物処理業者等との連携を図ることが迅速な災害復旧の条件となる。また近年、大規模な災害が頻発するわが国では、災害廃棄物の広域処理体制整備が不可欠となっており、

大栄環境が開発した「災害廃棄物処理情報管理システム」は、リアルタイムの情報管理を前提に、日々の輸送・中間処理・処分状況について、簡便な操作で自治体への計量データや画像を交えた定期報告を行なうことを可能にした国内初のシステム。同システムの活用により、広域処理を担う自治体や住民からの信頼獲得や全体プロセスの透明性確保につながり、災害廃棄物処理を含む産業廃棄物処理事業者が果たす責務と役割がさらに拡大していくことが期待される。

大栄環境は全国の市町村からの要請に応じ、災害廃棄物処理に関する協定の締結を進めており、今年6日には締結先の自治体が110となった。大規模自然災害発生時に各自治体におけるごみ処理施設での廃棄物処理が困難になった場合に、災害廃棄物の処理等が適正かつ円滑、迅速に行える体制整備を進めている。同社は今後も各地の民間企業等との連携体制を強化しつつ、わが国の災害廃棄物処理に必要な社会インフラとして、同システムの普及を図ることを目指していく。